

ジャガイモシロシストセンチュウとは

ジャガイモシロシストセンチュウと同様、ばれいしょ生産に甚大な被害をもたらす難防除病害虫。我が国では、これまで発生が確認されておらず、植物検疫の対象病害虫として侵入を警戒。根絶が極めて困難なため、発生した場合は、土壌移動によるまん延防止策や発生密度低減策の徹底が必要。

【分布】

インド、ヨーロッパ、ロシア、米国、カナダ、コロンビア、ペルー、ニュージーランド等

【寄主植物】

ばれいしょ（ジャガイモ）、ナス等のナス科植物

【生態】

雌は交尾後、虫体が卵を保持したまま硬化・褐色化しシスト（包のう）となる。シストは、長期間にわたって乾燥や低温等に耐えることができる。

本種は、ほとんど移動しないため、シストを含んだ土壌が農業用機械類、ばれいしょに付着して、人為的に移動する。

このため、本種は、土壌等の移動がなければ、急速にまん延するおそれはない。

なお、本線虫が付着したばれいしょを食べても、人体への影響はない。

【被害】

本線虫が寄生したばれいしょは、根の生育が阻害されるため、葉の縮れや黄化等の症状がみられ、やがて枯死する。その結果、収穫量の著しい低下を引き起こす。また、本種が一旦圃場に侵入すると、根絶は非常に困難である。

【防除対策】

根絶が極めて困難なため、発生した場合は、土壌移動によるまん延を防止するとともに、発生ほ場では、転作等により発生密度を低減し、封じ込めを行うこととなる。

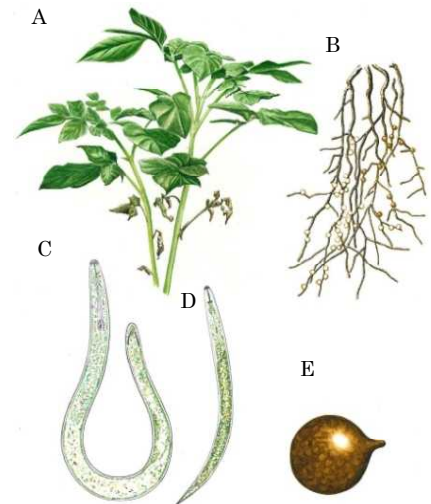


図 ジャガイモシロシストセンチュウ

A: ジャガイモ地上部の被害

B: シストが寄生した根

C: 雄成虫 D: 幼虫 E: シスト

※雄成虫は1.2mm程度、幼虫は0.5mm程度、シストは0.6mm程度。